

## 「主イエス、試みを受けられる」

2021年10月04日

それからすぐに、霊はイエスを荒れ野に追いやった。イエスは四十日間荒れ野にいて、サタンの試みを受け、また、野獣と共におられた。そして、天使たちがイエスに仕えていた。(マルコ福音書1章12節～13節)

主イエスは、洗礼者ヨハネから洗礼を受けられた。水から上がっている時、天が裂け、霊が鳩のように主イエスの中に降り、「あなたは私の愛する子、私の心に適う者」という声が天から聞こえた。主イエスは神と一つになり、神を啓示する神の愛する子となられた。

それからすぐに、主イエスは、サタンに試みを受けられた。神の国の宣教に向かうに先立って、諸々の苦難を乗り越えるための試練であった。その試みは霊に追いやられ、また、天使たちが仕えていたとあるように、乗り越えることは、必定のことであった。

マルコ福音書は、試みの内実については記していない。マタイとルカ福音書は三つの試みに遭われ、主イエスは「神の言葉」への信頼によって、乗り越えたと記している。マタイ、ルカ福音書において、順番は違っているが、試みは下記の三つである。

一つは「食べ物」の試みである。主イエスは、40日40夜、断食をした後、空腹になられた。すると、悪魔が来て、お前が神の子なら、石をパンに変えることができるはずだから、石をパンに変えて食べ、満腹したらどうだと誘った。主イエスは、「人はパンだけで生きるものではなく、神の口から出る一つ一つの言葉によって生きる」と答えられた。この言葉は、出エジプトしたイスラエルの民は荒れ野で飢えた時、先祖も知らなかったマナを食べさせられ、「人はパンだけで生きるものではなく、人は主の口から出るすべての言葉によって生きるということ、あなたがたに知らせるためであった(申命記8:3b)」と告げられた。人はパンなしでは生きられない。神はマナというパンを与え、神の言葉によって人は生きることを知らされた。主イエスは、「共に生きよ」という神の言葉に立脚し、神が与えてくださる食べ物を分かち合う時、真に生きる者となると返答されたのである。

二つ目は「奇跡」の試みである。悪魔は主イエスを聖なる都に連れて行き、神殿の端に立たせた。そして、お前が神の子なら、詩編91編11節～12節に、神が命じると、足が石に打ち当たらないように天使が支えてくださると書いてあるから、飛び降りてみよ、あつと驚くような奇跡を行えと誘った。主イエスは「あなたの神である主を試みてはならない」と応じられた。出エジプトしたイスラエルの民は荒れ野で飲み水に窮した。民はモーセに不平を述べた。モーセは「なぜあなたがたは私と言い争うのか。なぜ主を試みるのか」と対応している。神を試みるとは、神はおられるかどうかを懐疑することである。高い所から飛び降り、天使が支えてくださる奇跡が起こるかかどうかという懐疑に対し、主イエスは神を試みなくても、神は厳然とおられ、私を守ってくださると悪魔を退けている。

三つ目は、「偶像礼拝」に関する試みである。悪魔は高い山に連れて行き、国々の栄華を見せ、私を拝むなら、これらの栄華を全て与えようと誘った。主イエスは、「あなたの神である主を拝み、ただ主に仕えよ」と答えられた。これは、申命記6章13節の「あなたの神、主を畏れ、主に仕え、その名によって誓いなさい」の言葉からである。生きるに必要な土地、水などのあらゆる財産を与えてくださったのは悪魔ではなく、神である。この神のみを拝み、仕えたと答え、悪魔を撃退させた。悪魔にかしづくことによって、地上の栄華が得られるという世の慣わしを断固、拒否している。主イエスは、悪魔からの試みに対し、人を真に支え生かす神の言葉によって退け、神の国の宣教に向かわれた。